

<学部用>

授業科目

解剖学実習II

【担当教員名】 西野幾子、山口康昭、山田まりえ	対象学年	1	対象学科	理学・作業																				
	開講時期	後期	必修・選択	必修																				
	単位数	1	時間数	30																				
【<概要>又は<一般目標：G I O>】																								
人体模型標本、関節機能模型、人体骨格標本などを用いて、人体、特に筋系、関節・韌帯系を理解する。 人体組織、特に骨、軟骨、筋の微細構造を光学顕微鏡的に観察し、それらを理解する。																								
【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】																								
<ol style="list-style-type: none"> 骨・軟骨・筋・神経組織の構造を光学顕微鏡的に概説できる。 主な関節を構成する骨、それらに付随する韌帯を観察・スケッチし、それらの名称、簡単な機能を説明できる。 上肢・下肢の筋を観察・スケッチし、それらの名称と機能を説明できる。 体幹の筋を観察・スケッチし、それらの名称を説明できる。 系統解剖を見学し、人体の構造を3次元的に理解し、個々の身体の違いを実感する。 																								
回数	授業計画又は学習の主題			SBO																				
				番号/学習方法・学習課題又は備考・担当教員																				
1	解剖学実習IIの概要とオリエンテーション			実習																				
2	組織学実習	顕微鏡を用いた骨・軟骨。筋。神経組織標本の観察とスケッチ		1 //																				
3				1 //																				
4	関節・韌帯学実習	各関節の関節模型・関節機能模型の観察とスケッチ		2 //																				
~				2 //																				
6				2 //																				
7	筋学実習	上肢・下肢の筋の観察とスケッチ		3 //																				
~				3 //																				
11				3 //																				
12	筋学実習	体幹の筋の観察とスケッチ		4 //																				
13	人体解剖見学実習	新潟大学医学部		5 //																				
14				5 //																				
【使用図書】																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【使用図書】</th> <th>【書名】</th> <th>【著者名】</th> <th>【発行所】</th> <th>【発行年・価格・その他】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教科書 (必ず購入する書籍)</td> <td>ヴォルフ・ハイデッガー人体解剖カラーアトラス1 系統解剖学 体壁・上肢・下肢</td> <td>千葉正司</td> <td>考古堂</td> <td>2001年 3500円</td> </tr> <tr> <td>参考書</td> <td>線描 骨学実習</td> <td>千葉正司</td> <td>考古堂</td> <td>2001年 3500円</td> </tr> <tr> <td>その他の資料</td> <td>プリントの配布</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					【使用図書】	【書名】	【著者名】	【発行所】	【発行年・価格・その他】	教科書 (必ず購入する書籍)	ヴォルフ・ハイデッガー人体解剖カラーアトラス1 系統解剖学 体壁・上肢・下肢	千葉正司	考古堂	2001年 3500円	参考書	線描 骨学実習	千葉正司	考古堂	2001年 3500円	その他の資料	プリントの配布			
【使用図書】	【書名】	【著者名】	【発行所】	【発行年・価格・その他】																				
教科書 (必ず購入する書籍)	ヴォルフ・ハイデッガー人体解剖カラーアトラス1 系統解剖学 体壁・上肢・下肢	千葉正司	考古堂	2001年 3500円																				
参考書	線描 骨学実習	千葉正司	考古堂	2001年 3500円																				
その他の資料	プリントの配布																							
【評価方法】																								
実習態度、出席状況、スケッチブック、筆記試験の総合評価		【履修上の留意点】																						
		実習室では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。スケッチブックと色鉛筆が必要。																						
		実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。																						